HOTEL SPA-Mu

季刊 2024.07~09
No.71

じゃんけんスクラッチカード

9月1日~30日迄

メンバー様限定

勝ったらパフェ or アイスなど差し上げます。

擦って勝ったらフロントまでご連絡ください。

※ 期間中でもスクラッチカードがなくなり次第終了いたします。
※ 景品は予告なく変更する場合がございます。

ルール

3つの中からひとつを選び10円玉などコインで軽く
こすってください。
じゃんけんに勝ったらラッキープレゼント!!
※複数こすってあるものは無効です。
「負け」「あいこ」は残念！

※メンバー様限定

SPA-MuがInstagramを始めました!

7月5日～9月31日まで

まだ、フォローワーが少ないので皆さまのお力でフォローワーを増やしてください。

皆さまのお力でフォロワーが増えましたら素敵なプレゼントを進呈いたします。

100人フォロワー達成記念。
200人フォロワー達成記念。

100人フォロー、200人フォロー見ましたとフロントまでご連絡ください。

スパムでの癒しの時間の写真やリールをアップしてもらえるとフォローワーも増えると思うのでぜひ投稿お願いします!!

Instagram はじめました!

\follow us/

ホテルスパム

写真をメインに
さまざまな情報をお届けします

大好評クロスワードパズル

7月5日～9月31日まで

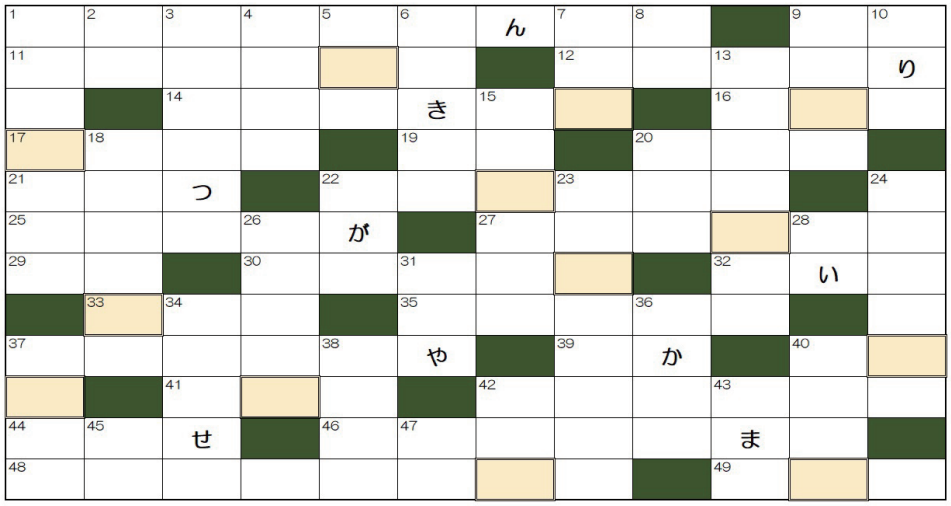
※メンバー様限定

○スパムメンバー登録が必要です。
（メンバーズカードを精算機に差し込んだ後にご連絡ください）

黄色マスの13文字を二つに分けて組み合わせると、ある人物の名前と、その人物の著書名になります。

回答方法：フロント9番まで口頭にてお伝えください。ポイントは後日加算します。1メンバーにつき1回だけのポイント進呈です。ヨコのカギとタテのカギについては、お部屋に設置の別紙をご覧ください。

ご正解者には2000ポイント進呈いたします。



SPA-Mu

暇つぶし間違い探しクイズ

（メンバー様限定）

答えが解ったらメンバーズNoと答えをフロントに電話して言って下さい。
全問正解されたメンバー様には粗品をプレゼントします。

間違えは7箇所です

正解イラスト

間違えイラスト

Food & Service フード&サービス

納涼フェアー（7月～8月20日迄）

※詳しくは机の上の各フェアのポップをご覧下さい。
※写真はイメ ージです。

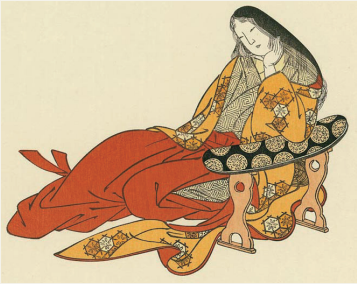
ぶっかけうどん

オクラと長芋カッペリーニ

アロハロコモプレート

イタリアンなライスサラダ丼

凡人コラム　蜻蛉（かげろふの）日記



時は千八十八年前の平安時代中期、承平六年（936年）にひとりの女流作家が誕生しました。のちに中古三十六歌仙のひとり、また女房三十六歌仙のひとりに数えられることになる彼女の名は不明ですが、歴史上では通称、道綱母と呼ばれ、小倉百人一首では右大将道綱母となっています。NHK大河ドラマ『光る君へ』では藤原寧子（やすこ）として財前直見さんが演じています。「寧子」は仮名で、道綱母の父親が藤原倫寧（ともやす）から、NHKが一文字を取って付けたのだと思います。

道綱母は紫式部の義理の大叔母の妹にあたり、清少納言とは義姉妹の関係で、道綱は異母弟の藤原道長と懇意となり右大将まで出世します。藤原道長と言えば『源氏物語』の主人公、光源氏のモデルではないかとされているひとりです。

今回のコラムでは、既にご存じの方もいらっしゃると思いますが、紫式部の作品に多大な影響を与えた道綱母の『蜻蛉日記』をご紹介します。『光る君へ』をご覧になられている方には、より作品が味わい深くなるかもしれません。

道綱母は藤原兼家（のちの太政大臣）から求婚され、二番目の妻として結婚します。この時点では一番目の妻の時姫が正妻とは決まっていませんでした。しかし長男道綱が生まれたものの、一人しか子宝に恵まれず、特に女の子が生まれなかったため正妻を諦めることになります。時姫は五人の子どもに恵まれ正妻となり、女子二人は帝の皇室に入り後の三条天皇と一条天皇を出産します。

『蜻蛉日記』はそんな道綱母による、結婚した十九歳から三十九歳までの二十一年間の薄幸の情愛自伝です。なお道綱母は六十歳まで生きました。日記が文学となったのは紀貫之の『土佐日記』が嚆矢とされますが、紀行文の随筆であり、そのあとに続いた『蜻蛉日記』は、内面の心情を初めて写実的に綴った「女の一生」ドキュメンタリー作品です。道綱母は日本のトップランナーでした。 彼女がこの作品を書き終えたころ、清少納言は八歳、紫式部は四歳でした。『蜻蛉日記』は読者にごく身近の女性のみを想定して書かれたとされ、清少納言も紫式部も読む機会に恵まれました。

上巻は三十四歳までの十五年間、主に述懐を想起しながら書かれており、夫である兼家との恋歌のやりとり、九人もの妻がいてなかなか訪れてくれない夫を待つ身のつらさ、やっと会えても嫉妬心で悪態をついてしまい帰られてしまう。自分を責める。そうしたわが身の不幸せさを和歌とともに叙述しています。そのほとんどが主観的な心情の吐露ですが、どろどろしたものではなく、彼女の自己評価の低さと懊悩が描写されています。その文章力と和歌の創作力は読者を引きずり込みます。なお道綱母は「本朝一美人三人内也」と言われ、当時の三大美人とされるほど美しかったのですが自己評価が低く、夫から飽きられているとばかり思いこんでいます。浮気者の兼家ですが、九人の妻のうち道綱母を最も愛していたと私には感じられました。何よりも彼女の文才に惚れていた一面がありました。

「なげきつつ ひとり寝る夜のあくるまは いかに久しきものとかは知る」

（嘆きながらひとり寝をする夜の明けるまでが、どんなに長く辛いものかおわかりでしょうか。…戸を開ける間さえ待ちきれぬあなたではおわかりにならないでしょうね。）小倉百人一首に採用された一首です。

このように道綱母は皮肉を歌にこめることが多く、素直に来てくださいとは言えずに、どうなさろうとあなたのお心に任せて見ていようと思いますなどと書いてしまい、兼家の足を遠のかせてしまいます。そして彼女はまたやってしまったと自分を責めますが、この態度を変えることができません。

上記の和歌は序の口で、どうにもならない自身の心の悲嘆を熱唱している歌がごろごろあるのが『蜻蛉日記』です。兼家と道綱母とのやり取りは男女の心の綱引きを見事に表現し、彼女の隠された本心が日記の端々からうかがえます。

日記文学はその後、『紫式部日記』、『和泉式部日記』など多々出ますが、やはり『蜻蛉日記』が圧倒的であり、肩を並べる日記作品には、道綱母の姪にあたる菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ･･本名不明）が、十三歳から五十二歳まで約四十年間の省察を浪漫的に描写した『更級日記』（1059 年）があります。

日頃お疲れの心を癒し、心にみずみずしい潤いを与えるためにも、機会がございましたら御一読をお勧めします。